

日本学校教育学会

Japanese Association of School Education

第 33 回大会プログラム

2018 年 8 月 3 日(金)～5 日(日)

於：東京学芸大学

日本学校教育学会第 33 回大会実行委員会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学

総合教育科学系 高橋 純 研究室内

電話（大会期間中も可）：042-329-7344

E-mail：taikai-info@jase.gr.jp

共催：国立大学法人東京学芸大学

日本学校教育学会第 33 回大会の開催にあたって

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

第 33 回大会を東京学芸大学で開催させていただくこととなりました。

本学会は大学・研究機関等の研究者のみならず、現職教員の先生方にも多数の会員を有しており、また、戦後の教育政策の中でも非常に大きな転換期を迎えております。こうしたことをふまえ、本大会では、「地域における教育組織、学校組織、教育課程の新しい関係の創造—機能概念としてのカリキュラム・マネジメント—」を公開シンポジウムのテーマとして設定致しました。皆様もご存じの通り、新学習指導要領で示されるカリキュラム・マネジメントは大変に幅広い考え方であります。そこで、過疎化と人口集中への対応、自治体内部における権限の再配分と調整、学校を超えた教育課程の構想、新しい学校マネジメントシステムを追究している長野市を事例として、機能概念としてのカリキュラム・マネジメントについての議論を深めていく予定にしております。

また、今回は、会員の皆様より 50 件を超える自由研究発表を精力的にお申し込みいただき、12 分科会において議論が交わされる予定です。さらに、課題研究「教師教育の高度化②—教職大学院が育成する教員—実践知育成への取組と課題—」に加えて、2 つのラウンドテーブル「実践研究論文に挑戦しよう—自分の問題関心を実践研究として成立させるために—」「演劇と教育—ヴィゴツキーとデューイ、現代教育理論の底流から—」が予定されており、皆様のご尽力のお陰で、大変に充実したプログラム構成となっております。

東京学芸大学は、東京都小金井市に位置しており、武蔵野の豊かな緑に囲まれたキャンパスとなっております。本大会が成功致しますよう一生懸命に準備を行っていく所存でございますので、多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

第 33 回大会

大会実行委員長 国分 充

大会案内

1. 日程

【理事会 8月3日（金）】

16:00～18:00	理事会	教職大学院棟 1 階 講義室 2
-------------	-----	------------------

【第1日 8月4日（土）】

8:30～	大会受付	N 棟 1 階
9:00～11:50	自由研究発表 1	N101 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 2	N102 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 3	N103 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 4	N104 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 5	N105 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 6	N106 (N 棟 1 階)
12:50～13:50	定期総会	S410 教室
14:15～17:00	公開シンポジウム	S410 教室
17:30～20:00	情報交換会	第二むさしのホール 2 階

【第2日 8月5日（日）】

8:30～		N 棟 1 階
9:00～11:50	自由研究発表 7	N101 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 8	N102 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 9	N103 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 10	N104 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 11	N105 (N 棟 1 階)
	自由研究発表 12	N106 (N 棟 1 階)
13:00～15:30	課題研究	S410 教室
15:40～17:00	ラウンドテーブル 1	N101 (N 棟 1 階)
	ラウンドテーブル 2	N102 (N 棟 1 階)

第1・2日目	会員控室	N203 (N 棟 2 階)
	大会本部	N107 (N 棟 1 階)

2. 大会参加申込

2018 年 7 月 26 日 (木) までに、学会 HP よりお申し込み下さい。

http://www.jase.gr.jp/2018_taikai/

3. 受付

講義棟 N 棟 1 階にて行います。

4. 大会参加費・懇親会費

大会参加費 (正会員・臨時会員) 4,000 円

(院生会員) 3,000 円

(学部生会員) 1,000 円

懇親会費 5,000 円

* 臨時会員とは、本学会の会員以外の参加者のことをいいます。

* 会員以外の方の公開シンポジウムの方の参加は無料です。

5. 昼食

大会中は、大学内の食堂は営業しておりません。お弁当の注文を希望する方は、上記、大会参加申込時に「発注する」を選択してください。注文いただいた方についてのみ、一食分 1,000 円 (飲み物付き、土日両日ともご注文の場合は 1,000 円×2) で販売いたします。

近隣には、大学東側のグラウンド門外にローソン、大学外、北東角に若干の飲食店がありますが、いずれも各企画会場からは距離がありますので、ご注意下さい。

6. 自由研究発表要領

◆ 発表時間

個人研究発表 (登壇者が 1 名) … 発表 20 分 質疑応答 10 分

共同研究発表 (登壇者が 1 名) … 発表 20 分 質疑応答 10 分

共同研究発表 (登壇者が複数) … 発表 30 分 質疑応答 10 分

◆ 共同研究における○印は口頭発表者を示すものです。非登壇者を含め申込者全員が、日本学校教育学会の会員であることが研究発表にエントリーする必要条件です。

◆ 発表資料は各自 60 部を目安に大会当日ご持参下さい。事務局でのお預かり、当日会場でのコピーは承っておりません。ご了承下さい。(課題研究は 100 部を目安にご準備下さい。)

◆ 会場には備え付けのプロジェクターならびに Windows 10 の発表者用 PC を用意します。使用される場合は、係員の指示のもと、開始時刻の 15 分前までに会場に来て動作確認をしてください。発表者用 PC は、PowerPoint ファイル (.pptx に加えて .ppt 形式も念のためご準備下さい) ならびに PDF ファイルを投影できるようにする予定です。会場設置の PC でのデータの編集作業はご遠慮下さい。HDMI 接続のみの Windows PC や Mac など、その他の機器をご使用の場合は、接続の変換に必要な機材をご持参下さい。映像入力端子は標準的なミニ D-Sub15 ピン(VGA)です。

- ◆ 発表者は、指定発表開始時間にかかわらず、会場の開始 10 分前に司会者に出席を通知してください。また発表者は、ご自身の発表前後も各分科会の会場に居るようにしてください。
- ◆ 発表者がやむを得ない理由により欠席する場合には、速やかに大会実行委員会までご連絡ください。なおこの場合、発表時間・発表順序の繰り上げは行わず、司会者の判断により、休憩または討議の時間にあてます。

7. 宿泊について

宿泊に関する斡旋・予約の仲介はいたしませんので、各自で手配ください。

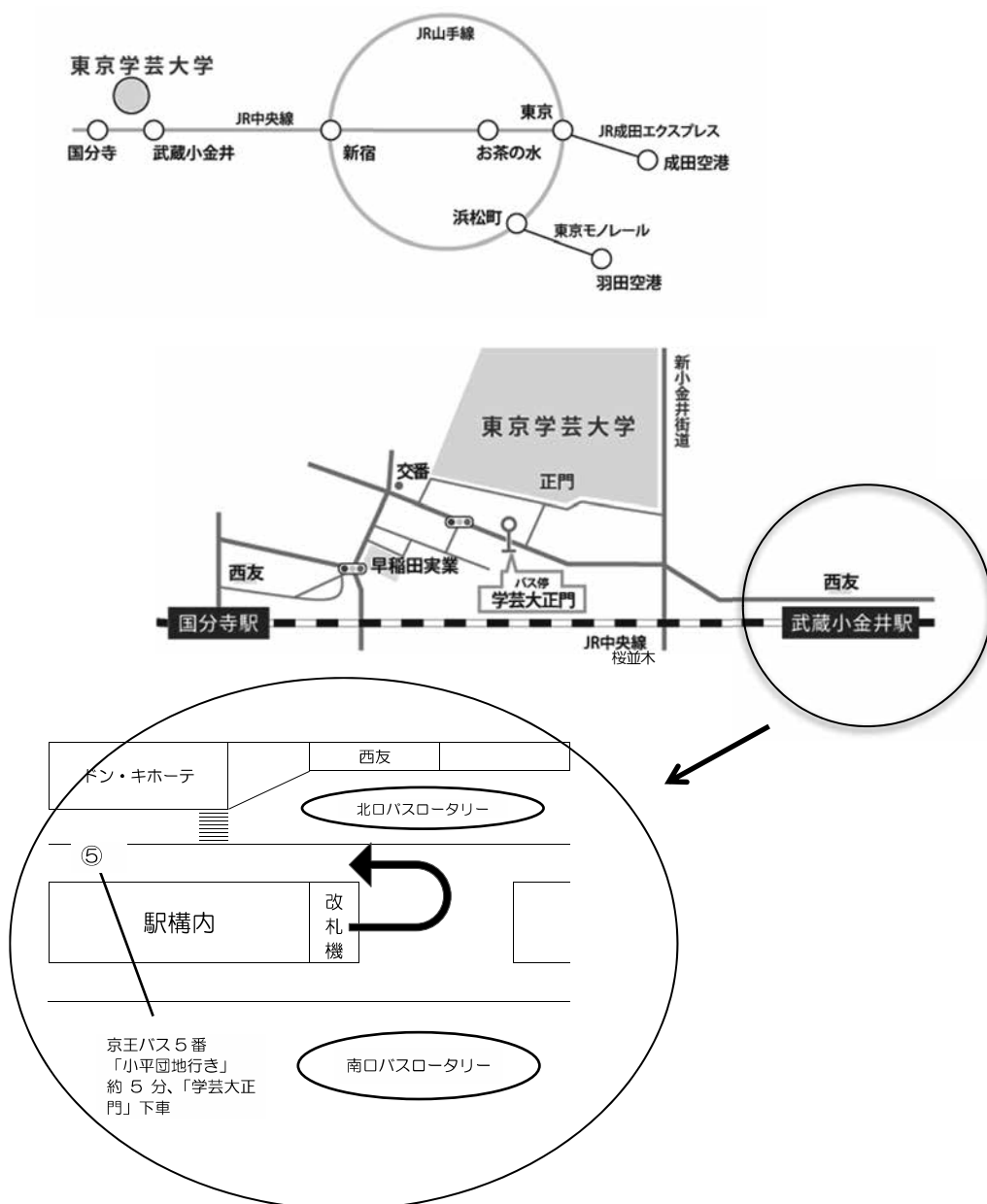
交通のご案内

○キャンパスの詳細な地図、アクセスにつきましては、ウェブサイトの情報をご確認ください。

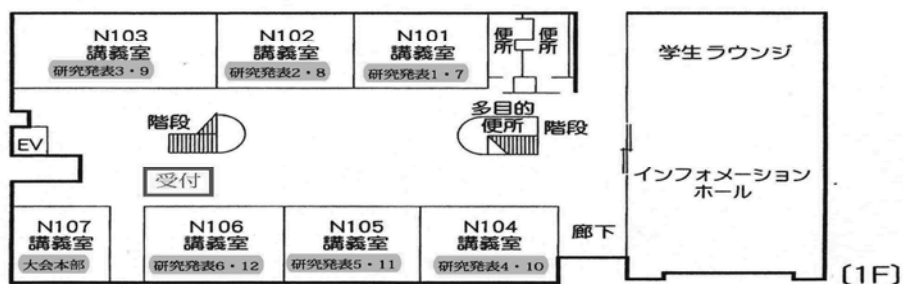
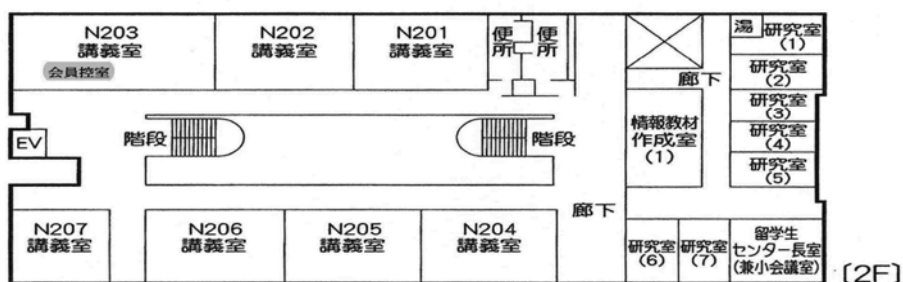
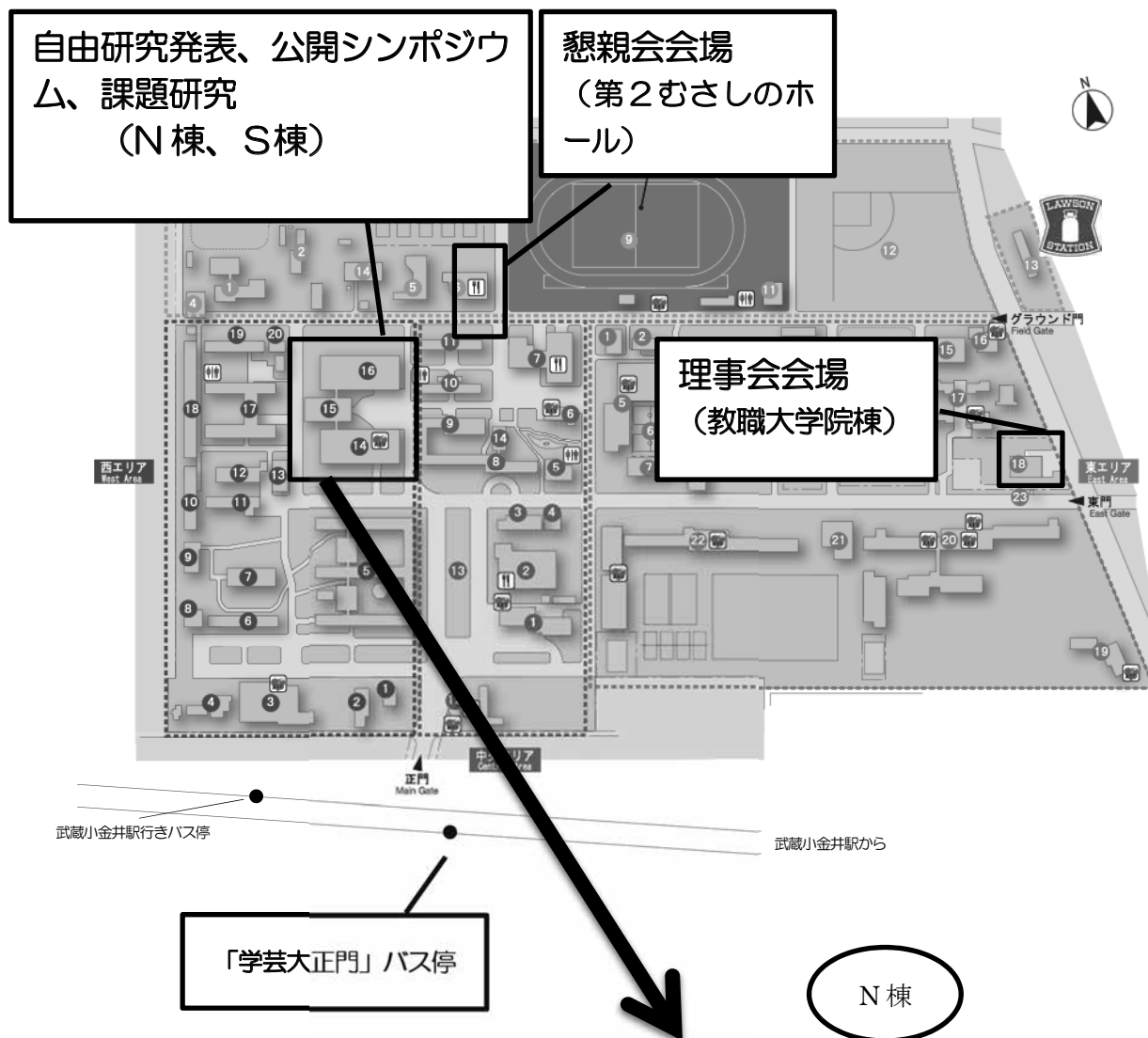
<http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>

○最寄り駅：JR 中央線 武蔵小金井駅

○武蔵小金井駅からの経路：改札口（1ヶ所）を出て自由通路を北口へ。左手へ進み30メートル程で京王バス「5番」バス停から「小平団地」行きに乗車、約10分で「学芸大正門」下車、横断歩道を渡り、桜並木通りを歩いて正門へお進み下さい。
*なお、8/3（金）の理事会にご出席の方は、「6番」バス停から「中大循環」に乗車、約10分で「学芸大東門」下車いただき、東門をお使いいただく方が便利です。（土日は、東門からは入構できませんので、ご注意ください）



大会会場建物配置図



大会1日目

8月4日(土)

自由研究発表 1

【司会】高田喜久司(新潟工科大学)

林泰成(上越教育大学)

・9:00 開会

・9:05～9:35

日中相互理解を目指した国際理解教育の単元開発

ーことばによる異文化コミュニケーションの誤解事例を通してー

○周勝男(兵庫教育大学連合大学院・院生)

・9:35～10:05

台湾・日本の国際交流学習を絡めた第二外国語教育

ー中学校における日本語教育の導入を中心にー

○闕百華(淡江大学)

・10:05～10:10 休憩

・10:10～10:40

外国籍留学生参与型アクティブラーニングによる授業の活性化

○桂田愛(静宜大学)

王金國(臺中教育大学)

・10:40～11:10

論理的に英語を話す力を育成するための教材開発に関する研究

○服部孝彦(大妻女子大学)

自由研究発表 2

【司会】鈴木樹（鎌倉女子大学）

青木一（信州大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

音楽集会の理論と実践—身体性と現場性がつくる音楽と集団—

○湯澤卓（上越教育大学附属小学校）

・ 9:35～10:05

北海道教育大学教職大学院における「命の教育プロジェクト」2

○井門正美（北海道教育大学）

井上博文（札幌市立札幌中学校）

武田竜太（新十津川町立新十津川中学校）

山田洋一（北海道教育大学・院生／

恵庭市立和光小学校）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

シャラン&シャランのグループ・プロジェクト法に焦点化した授業プログラム開発
のための予備的研究—他者を尊重する行為の表現方法について—

○白根奈巳（名古屋市立大手小学校／名古屋市立大学研究員）

原田信之（名古屋市立大学）

・ 10:40～11:10

ドイツの学力調査と授業のクオリティ・マネジメント

○原田信之（名古屋市立大学）

自由研究発表 3

【司会】根津朋実（筑波大学）

松井千鶴子（上越教育大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

地域による教育の活性化に関する研究

－文部科学省の地域と学校連携事業参考事例集を手がかりに－

○大塚龍之介（上越教育大学・院生）

・ 9:35～10:05

資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの視点と方法

○椎野舞（島田市立伊久美小学校）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

総合的な学習の時間の探究学習とカリキュラム・マネジメントに関する一考察

○一之瀬敦幾（常葉大学）

・ 10:40～11:10

世界地誌学習のカリキュラムデザインに関する資質能力と教師の学びの機会との関係

－地理教育研究と教師教育研究を架橋する統合的視点から－

○長倉守（静岡市立由比中学校）

・ 11:10～11:50

安全学習についての総合的研究－判決書の教材開発を中心に－

○蜂須賀洋一（上越教育大学）

○新福悦郎（石巻専修大学）

自由研究発表 4

【司会】安藤雅之（常葉大学）

國分充（東京学芸大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

中国の特殊教育における教員養成カリキュラムに関する研究

○付成（兵庫教育大学連合大学院・院生）

河合康（上越教育大学）

・ 9:35～10:05

協働によるチーム学習を活用した教師の意識変容

－個別支援学級の学級活動の事例を通して－

○木村昭雄（横浜市立下永谷小学校）

米澤利明（金沢学院大学）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

中学校特別支援教育経営における教育支援体制に関する研究

○坂詰悦子（八王子市立四谷中学校）

・ 10:40～11:10

札幌市立大通小学校言語治療教室の創設と組織特性

○田中謙（山梨県立大学）

・ 11:10～11:40

教育実習における課題－特別な支援を必要とする児童・生徒の関わりに着目して－

○枝元香菜子（金沢学院大学）

峯村恒平（埼玉大学）

渡邊はるか（目白大学）

藤谷哲（目白大学）

山本礼二（目白大学）

自由研究発表 5

【司会】山崎保寿（静岡大学）

鈴木久米男（岩手大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

「教育機会確保法」の運用の在り方について

ー先進事例の分析を通してー

○牛玄（東京学芸大学連合大学院・院生）

・ 9:35～10:05

教職員組合恵那支部 1957 年方針における転換

ー教職員組合と父母との連携のあり方に着目してー

○山沢智樹（首都大学東京・院生）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

高等学校の教育課程

ー問われる高校卒業（高卒資格）

○小島一芳（神村学園）

・ 10:40～11:10

教育困難高校における「学び直し・基礎学力の定着」に関する取組と課題

ー全国アンケート調査からー

○山田朋子（女子美術大学短期大学部）

・ 11:10～11:50

若手教員の成長と葛藤ー小規模小学校に着目してー

○菅原至（上越教育大学）

○松井千鶴子（上越教育大学）

自由研究発表 6

【司会】釜田聡（上越教育大学）

和井田清司（武蔵大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

教員養成における理論と実践の主体的融合

○小林淳一（金沢学院大学）

・ 9:35～10:05

正解を定めない観察が教員養成課程における授業観察に及ぼす効果

○山田雅彦（東京学芸大学）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:50

教員養成課程における図画工作と家庭の教科間連携の取り組み

○佐藤仁美（目白大学）

○高橋美登梨（東京学芸大学・院生）

○江川あゆみ（目白大学）

・ 10:50～11:30

グローバル時代に対応した教員研修プログラムの開発－経過報告－

○中山博夫（目白大学）

○石田好広（目白大学）

多田孝志（金沢学院大学）

和井田清司（武蔵大学）

小林恭子（目白大学）

○横井成美（名古屋市立高針小学校）

公開シンポジウム

地域における教育組織、学校組織、教育課程の新しい関係の創造 ー機能概念としてのカリキュラム・マネジメントー

【趣旨】

新学習指導要領は、「カリキュラム・マネジメント」の重要性を指摘している。カリキュラム・マネジメントとは、一般的に、学校が主体となって、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数等との関連において総合的に組織し、教育課程を編成することという意味で使用されている。

しかし、地域においては、少子化による学習集団の編制の在り方、教員の配置・組織化・マネジメントの在り方、学校や校種を超えた教育課程の在り方が、同時に追究されており、「カリキュラム・マネジメント」は、「学校」「教育課程」を超えた広がりをもったものとして検討されている。公開シンポジウムにおいては、過疎化と人口集中への対応、自治体内部における権限の再配分と調整、学校を超えた教育課程の構想、新しい学校マネジメントシステムを追究している長野市を事例として、機能概念としてのカリキュラム・マネジメントについての議論を深めることを趣旨としている。

【シンポジスト】

「少子化を踏まえた地域における教育体制の在り方ー教育行政の視点からー」

伊藤 学司 氏（公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 CFO
・企画財務局長、前文部科学省初等中等教育局財務課長、前長野県教育長）

「地域の変化や特質を踏まえたカリキュラム・マネジメントと子どもの学び」

奈須 正裕 氏（上智大学総合人間科学部教授、中央教育審議会教育課程部会委員）

「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方について

～社会全体の協働による新たな学びの場づくりへの挑戦～」

山沢 清人 氏（長野市活力ある学校づくり検討委員会委員長、前信州大学学長）

司会： 福本みちよ（東京学芸大学教職大学院 教授）

大会2日目

8月5日(日)

自由研究発表 7

【司会】黒羽正見（群馬大学）

小林淳一（金沢学院大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

主体的・対話的で深い学びを実現する算数科学習についての一考察

○小林広昭（横浜市立山下みどり台小学校）

・ 9:35～10:05

深い学びを促す指導

○桑原哲史（東京都立松が谷高等学校）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

「深い学び」を実現する授業実践

○小池嘉志（中部大学）

・ 10:40～11:10

小学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」
ー我が国の伝統的な拍の捉え方を学ぶ授業を通してー

○小林恭子（目白大学）

・ 11:10～11:40

大学授業における「主体的・対話的で深い学び」の実践・検証

○石橋裕（東邦音楽大学）

自由研究発表 8

【司会】菅原至（上越教育大学）

黒田友紀（日本大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

参加型人権学習「ランキング」における認識形成過程の実践的考察

○河野辺貴則（兵庫教育大学連合大学院・院生）

・ 9:35～10:05

「学校体験活動」の導入に関わる考察

○橘田重男（静岡福祉大学）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

高等学校と警察が連携して行うボランティア活動に関する研究(2)

－愛媛県西条市の高校生防犯ボランティア C.A.P.の実践に基づく考察－

○林幸克（明治大学）

・ 10:40～11:10

小中連携行事の効果を探る

－中学校入学説明会に参加した小学6年生の変容を通して－

○樋口綾子（九州栄養福祉大学）

・ 11:10～11:40

イメージの共有を前提とした対話的な劇創作活動の展開

－他大学や異学年の学生との交流を軸に－

○山本直樹（長野県立大学）

自由研究発表 9

【司会】藤田武志（日本女子大学）

堀井啓幸（常葉大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

いじめが起きるメカニズムの検討

ーこれまでの先行研究への批判的検討を手掛かりにー

○安住侑祐（上越教育大学・院生）

・ 9:35～10:05

暴力型いじめに対する厳罰主義の可能性

ーゼロトレランスと公教育縮小論の視点からー

○蔣宇（上越教育大学・院生）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

学校生活に対する生徒の認識の実態

ーA 中学校における学年差や変容の実態及び学級の影響の把握によりー

○鈴木久米男（岩手大学）

・ 10:40～11:10

教育カウンセリングの特質を活かしたキャリア教育の実践

ー小学校高学年「マイチェックシート」の活用ー

○柳瀬啓史（高知市立介良小学校）

・ 11:10～11:40

子どもの無限の可能性を引き出し高める学校の創造

○隅内利之（青梅市教育委員会）

自由研究発表 10

【司会】安藤知子（上越教育大学）

小林正泰（共立女子大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

学校組織レジリエンスにおけるリーダーシップの在り方に関する研究

○福畠真治（東京大学・院生）

・ 9:35～10:05

教師の同僚性を高める校内支援体制の検討

○清水貴夫（信州大学・院生／

須坂市立旭ヶ丘小学校）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:50

校内研究の推進に影響を及ぼす組織的要因に関する研究

○中田正弘（帝京大学）

○町支大祐（立教大学）

・ 10:50～11:30

営利組織と学校の協働・連携

○渡部晃正（東京家政大学）

○栗栖淳（国土舘大学）

田部井潤（東京国際大学）

自由研究発表 11

【司会】瀬戸健（富山国際大学）

武嶋俊行（元上越教育大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

論理作文を活用した教員研修の仕組みと効果

○山田洋一（北海道教育大学・院生／
恵庭市立和光小学校）

・ 9:35～10:05

教育委員会における OJT の概念の一考察

ー実践事例から見る OJT の特徴・共通項に着目してー

○松尾瑛莉（上越教育大学・院生）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

教職実践演習の授業設計理念と質保証の取組

ー教育実習から学びの履歴づくりー

○青木一（信州大学）

・ 10:40～11:10

教職大学院における教育専門実習の現状と課題について

ー学校運営コースを中心にー

○山内隆之（山形県米沢市立関小学校）

自由研究発表 12

【司会】多田孝志（金沢学院大学）

金井香里（武蔵大学）

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:35

大学生の学習スタイル、学習ストラテジーと習熟度に関する相関的研究
ー台湾の日本語学科生を対象にしてー

○林明煌（嘉義大学）

・ 9:35～10:05

School Fundraising in Taiwan
: Donor Behavior

○何宣甫（嘉義大学）

・ 10:05～10:10 休憩

・ 10:10～10:40

The English Learning Strategies Used by the Good Learners in the University

○李梅蘭（嘉義大学・院生）

姜得勝（嘉義大学）

・ 10:40～11:10

The Curriculum Imaginary and Practice of Experimental Schools in Taiwan

○楊智穎（屏東大学）

蔡寬信（屏東大学）

課題研究

教師教育の高度化②

—教職大学院が育成する教員—実践知育成への取組と課題—

【趣 旨】

教職大学院は制度発足来、教員養成高度化の先導的モデルであるとされてきた。この背景には、子ども同士のコミュニケーションの欠如、グローバル・イノベーション人材の育成、世界で活躍する日本人の育成、ICT、特別支援教育、いじめ、親の高学歴化、外国籍児童生徒の急増等、子どもの置かれている状況が大きく変化してきていることが挙げられる。そのため、このような課題に対応できる高い資質と指導力を備えた教員へのニーズが社会的に強く要請され、専門職としての知識・技能を不断に修得する「学び続ける教員」の育成が、課題解決を図る上で最も重要な改善策であるとされた。

大量退職の時代を迎え、20代～30代前半の教員が増える一方で、少子化による学校の小規模化あるいは学級数の減少が進行し、若い教員がベテラン教員からノウハウを受け継げないといった声や、保護者・地域との連携の高まり等において、初任者がその期待に応えられていない状況が多々生じているという指摘がある。特に初任者をめぐる課題として、文科省の調査（三菱総合研究所「教員の資質向上方策の見直し及び教員免許更新制の効果検証に係る調査」平成22年4～8月、文科省委託研究）に見られるように、集団指導の力、授業づくり、学級づくりの力が不足しているという教員の指導力そのものに対する問題が指摘されていることは看過できない。そのため大学ではどのような能力を教職志望の学生に身に付けさせるかという養成側の大学への課題が厳しく提示されることになる。加えて本調査では、教員研修が個々の教員の学びに応える必要があり、さらに管理職には状況への対応、教員の意欲を引き出す能力、組織的機動性、学校経営の力が不足していると報告されている。そのため管理職のマネジメント能力を如何に開発するかも課題とされた。

平成29年度、各都道府県と政令指定都市には教員育成協議会が必置されることになった。教員育成協議会は、採用と研修の責任者である教育委員会と、養成と研修に協力している大学が連携して、教員の養成、採用、研修の連関性・一体性を高めることを意図した仕組みであり、「教員育成指標」の作成が求められた。また教員育成協議会において中心的役割を果たすのが教職大学院であるされ、教職大学院の役割が一層期待されることになった。その一方で、教職大学院が教員育成にどのような役割を果たしているのか、その成果が見えないという指摘を多々受けることも事実である。

そこで課題研究では、教職大学院における実践的指導力を育成するための具体的取り組み及び課題を通して、「教師教育の高度化」を実現させる教職大学院の在り方を明らかにすることを目的とする。

【報告者】

1. 金 郁夫 氏（文部科学省高等教育局大学振興課 教員養成企画室 室長補佐）
2. 大野 裕己 氏（滋賀大学教職大学院 教授）
3. 矢嶋 昭雄 氏（東京学芸大学教職大学院 教授）

司会：

原田 信之（名古屋市立大学） 安藤 雅之（常葉大学）

ラウンドテーブル1

実践研究論文に挑戦しよう

－自分の問題関心を実践研究として成立させるために－

【趣 旨】

日々の教育実践をどのように実践研究にしていっていいのでしょうか。また、それを論文としてまとめていくとはどのようなことなのでしょうか。

実践者が書く論文は、自らの実践を振り返り、意味づけていくという個人的な営為ですが、その作業は、実践に関わる者相互の学びと連帯によって支えられる集団的な営為でもあります。しかし現在では、実践者の論文執筆に関わって、そのような協働的な関係を成立させることは、なかなか難しいのが現実です。そこで、実践者と研究者とが専門職として支え合う本学会において、実践者が論文を執筆することを支援するワークショップを試行的に開催することにいたしました。

まずは、教育実践をどう対象化していくのか、それを論文にしていくことはどのようなことなのかについてじっくり考えます。その上で、ラウンドテーブルの参加者を交えながら、問題関心をどう発展させ、論文へと結実させていくか、ワークショップを行います。実際に論文を書いている、書こうとしている方々はぜひご参加ください。

【内 容】

1. 金井 香里（武蔵大学）
「実践のリフレクションを実践研究にどうつなげるか」
2. 藤田 武志（日本女子大学）
「論文としてまとめていくとはどのようなことか」
3. ワークショップ（ファシリテーター：金井香里、藤田武志、菅原至、武嶋俊行）

（機関誌編集委員会）

ラウンドテーブル2

演劇と教育

ーヴィゴツキーとデューイ、現代教育理論の底流からー

【趣 旨】

現代教育理論の底流にヴィゴツキーとデューイの思想が存在することを否定する人はいないだろう。冷戦構造下の戦後教育学の時代とは異なり、冷戦後教育学の時代では、両者を教師・教科主導の教育論と子ども中心の教育論などと対立させることはもはやなくなった。むしろ、道具による媒介や活動という観点をともに採用した教育思想家として、両者の共通性を評価するようになったのが、1980年代以降のヴィゴツキー・ルネサンスやプラグマティズム・ルネサンスだと言えるだろう。

さらに今日では、教育理論の中心に躍り出た学習科学には「足場作り」や「協同」など、ヴィゴツキー派、社会文化的アプローチに基づいた用語が頻出する。同様に注目を集める教育評価論でも、「真正の学び」やその評価論においてデューイは重要な役割を占めている。

他方で、全く観点を変えると、学校教育への演劇の導入、教育への演劇的アプローチが現在、教員養成課程における研究と教育で注目を集めている。そして、この背景にもヴィゴツキーとデューイの思想への再評価が隠れているように思われる。本ラウンドテーブルの目的は、現代教育理論の底流となっているヴィゴツキーとデューイの思想を、あえて主流の学習科学、教育評価論からではなく、演劇という観点からとらえ直してみることである。そのことによって、「協同」や「真正の学び」といった新しい教育理論を、古い戦後教育学の枠組みに回帰することなく深めることを目指したい。また、教員養成課程との関わりで、教育実践に直結する現代教育理論には古典的思想という基礎があり、それに対する学問的取り組みが現代教育理論に豊かな可能性をもたらすことにつながるということを示唆できると期待される。

当日は、岡花がヴィゴツキーを対象とし、芸術的体験における情動の問題に焦点を合わせた発表を行う。古屋はデューイを対象とし、デューイの盟友アダムズの実践との関連から、「劇化」の教育思想としてデューイを読み直す。高尾はヴィゴツキーとデューイをともに対象とし、演劇教育において両者がどのように位置づけられているかを論じる。

【報告者】

1. 岡花 祈一郎（琉球大学）
「ヴィゴツキーの演じることによる情動論の可能性」
 2. 古屋 恵太（東京学芸大学）
「J. デューイと J. アダムズにおける「劇化」の教育思想」
 3. 高尾 隆（東京学芸大学）
「演劇教育においてデューイ、ヴィゴツキーはどのように位置づけられているか」
- 司会：中島 裕昭（東京学芸大学）

協賛広告一覧（掲載順）

株式会社 東大英数理教室 様

株式会社 教育同人社 様

学年や単元を越える

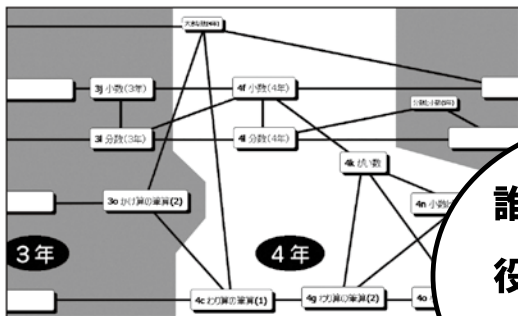
Study21 まなみち 学びの道しるべ

学年や単元を越えて、児童一人一人にとって必要な算数の学習ができるアダプティブラーニング教材です。

- 授業目的・クラスのレベルにぴったりの教材を自由にピックアップ・組み合わせが可能です。
- 「わからない」「つまずきがある」場合に、単に解説するのではなくスモールステップに分解された1つ1つを自ら考えることで「できた!」「わかった」が体験でき、ポイントを自覚します。
- 学習状況・学習過程の把握や、個人やクラスの成績の集計・分析が簡単にできます。

算数の教科特性をふまえた教材の構成

学年や単元を越えて、その子にとって必要な学習に進むための「教材間リンク」構造。



誰でも使えて
役に立つ ICT の
利活用のために

指導に活かせる学習記録データ

「単元」よりも細かい「学習内容」ごとの学習記録が把握でき、ほめる・指導するためのポイントがわかります。

3年 大きな数

目標	練習/テスト	内容	診断	補充後
①10000より大きい数のしくみ		素数・アッパ・数字	○	—
		一万、千、百、十、一を合わせた数	○	—
		一万、百、千、十、一、百、十、一を合わせた数	○	—
		数の線で表された数	△	○
		あてはまる数	×	○
		数の大小(応用)	×	○
		数と式の大小	△	○
		数の大小(基本)	○	—
		10倍した数	○	—
		100倍した数	○	—
		10でわった数	○	—

32000点以上のフリー素材を収録!

教育素材プレゼンター2

- 全て教育的観点で用意された素材だけを収録
- 学校現場での利用であれば、授業利用だけでなく、ホームページへの掲載や先生方の研究会資料への掲載・配布など一切自由にお使い頂けます。



大型提示装置向け小学校英語教材

Touch and Learn Revised

- 5・6年の全70単元に対応した教材全てにわかりやすく詳細な『指導案』を収録
- Hi, friends! に対応
- 教育番組などでもおなじみのネイティブ・ナレーターによる音声を採用
- 多彩なフラッシュカードやクラスルーム・イングリッシュも収録



制作・原案
久埜百合 (中部学院大学客員教授)

株式会社 東大英数理教室

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-17-2
TEL 03-3823-5230 FAX 03-3823-5231
http://tek.jp/ E-mail: tek@tek.co.jp



教科書にぴったり!の学習ノート 社会科アクティブノート 5・6年

「社会を見る力・考える力が身につく」よう、授業のまとめなど利用できる、教科書にぴったりの学習ノートを作成いたしました。教科書と同じ中心資料や事例地、写真、図版などを多数掲載し、児童にわかりやすく、先生には教えやすい内容になっています。

■社会科資料集

■教出採択地区版 社会科資料集付録
社会科アクティブノート



社会科資料集をご採用の場合、学年ごとに付録としてお付けします。



ステップ1

つかむ
「教科書」の資料をじっくり読み取る



ステップ2

わかる
「社会科資料集」を使って確かめる



ステップ3

深める
考えを言葉で表し、理解を深める

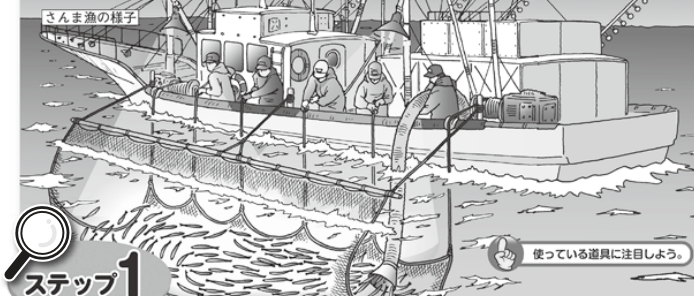
さらに デジタル教材付き!
社会科アクティブノート デジタル版 (指導者用)

3 水産業のさかんな地域

学習のめあて どの漁業や水産資源のさかんな地域について調べ、考えよう。

資料集▶p48~55
教科書▶(上) p76~87

さんま漁の様子



使っている道具に注目しよう。

ステップ1

教科書の資料を読みとろう!

①上の絵の人たちは、どんな道具を使っているかな。
○で囲もう。

いけす つりざお 集魚灯

②とったさんまについて、あうほうに○をつけよう。
() マイナス65℃までの温度で冷とうする。
(○) 紫外線で殺菌した冷たい海水につける。

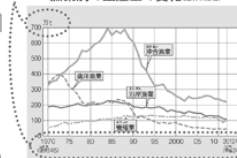
③②のようなことをする理由について、考えてみよう。
(例) 鮮度を保つため。

④右のグラフで、1985年からほとんどの漁業の生産量が減り続けている理由を、考えてみよう。
(例) 漁場の制限や水産資源の減少によるため。

▶わからないときは、資料集や教科書を見よう。また、クラスのみんなと話し合ってみよう。

生産量や年代の目もりに注目しよう。

漁業別の生産量の変化(単位:千トン)



とれる魚の量と関係があるかな?

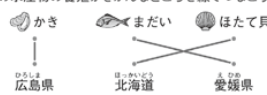


配当数 2、5〜7時

資料集を確認しよう!

- ①沖合漁業の生産量の変化について、正しいものに○をつけよう。
- () 生産量が急激に増えたのは、200海里水域のえいきょうを受けたからである。
 - (○) 生産量が急激に減ったのは、魚をとりすぎて
 - () 水産資源が減ったからである。
 - () 生産量が変わるのは、消費量の変化に合わせて、魚をとっているからである。

②次の水産物の養殖がさかんなところを線でつなごう。



③次の文の()にあう言葉を書き入れよう。

近年は漁か量が減ってきているため、
(育てる) 漁業に力が入れられています。
魚や貝、海藻などを、出荷するまで育てる漁業を
(たまご養殖業) といいます。また、魚や貝
をたまごから育てたあと、海や川などに放流し、成長して
からとる漁業を (さいばい漁業)

▶わからないときは、下の言葉から選ぼう。

(とる 育てる さいばい漁業 養殖業)

知っているかな?!

1本つりとあみ漁のちがい

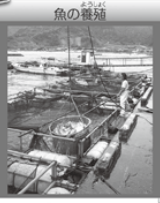
まきあみ漁の様子



あみは魚が多くとれるので便利だけれど、あみの中で魚がきずついたり死んでしまうこともあるんだ。つばおでとった方が魚をいためたいないこともあるんだ。

次の資料を見て答えよう!

魚の養殖



魚の養殖では、海の中にどんな施設をつくっているのかな。

(いけす)

ステップ3

わかったことを言葉であらわそう!

●会話がつながるように、()に文を書き入れよう。



育てる漁業では、どんなふうをしているかな。

人工的にたまごをふ化させて、成長してから魚をとることで、

(例) 漁業の生産量を安定させる ためのくふうをしています。



動画でチェック

NHK for school マタの養育 検索

日本学校教育学会第 33 回大会プログラム

2018 年 7 月 10 日 発行

発行者 日本学校教育学会第 33 回大会実行委員会

学会長 佐々木幸寿
大会実行委員長 國分充
大会実行副委員長 福本みちよ、山田雅彦
大会事務局長 高橋純
大会事務局次長 末松裕基
大会事務局次長 大村龍太郎
運営 腰越滋、林尚示

学会事務局
事務局長 矢嶋昭雄
事務局担当 吉田富昇、平原保

日本学校教育学会第 33 回大会実行委員会
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学
大会事務局長：高橋 純
E-mail: taikai-info@jase.gr.jp